2026年9月期 通期決算説明資料

株式会社 EduLab

2026年11月12日

東証グロース
4427

Agenda

1	会社概要	2
2	2026年9月期 決算実績	12
3	2027年9月期 業績予想	21
4	2026年9月期のPR開示	23

会社概要

© EduLab, Inc.

Mission Statement

OUR MISSION

私たちは、一人ひとりが自分の力の現在地を知り、可能性を見出し、学びを通じて成長し続けられる社会の実現に貢献します。

そのために、測定技術を磨き続け、学ぶ人とそれを支える人たちに、
信頼できるテストと評価、そして次の学びにつながる機会を届けます。

© EduLab, Inc.

会社概要

会社名	株式会社EduLab（EduLab,Inc.）
所在地	東京都品川区東品川2-3-12 Tennozu Bay Tower 11階
市場区分	東証グロース
代表者	代表取締役社長　川瀬 晴夫
事業セグメント （2026年9月末）	テスト等ライセンス事業、AI事業、テスト運営・受託事業 テストセンター事業、その他事業
取引金融機関	みずほ銀行、商工中金、りそな銀行、 三菱UFJ銀行、三井住友銀行、三井住友信託銀行

設立

2015年3月

（事業創立 2000年4月）

資本金

9,000万円

（2026年9月30日現在）

連結総資産

3,143百万円

（2026年9月末）

連結従業員数

220名

（2026年9月末）

© EduLab, Inc.

事業セグメントの構成

長年培った測定・評価技術を基盤に、テストの開発・実施・分析、テストセンター運営、学習支援まで展開

テスト等ライセンス事業

試験・学習サービスを展開
「CASEC」、「英検Jr.」などの、語学を中心としたサービスを提供

テスト運営・受託事業

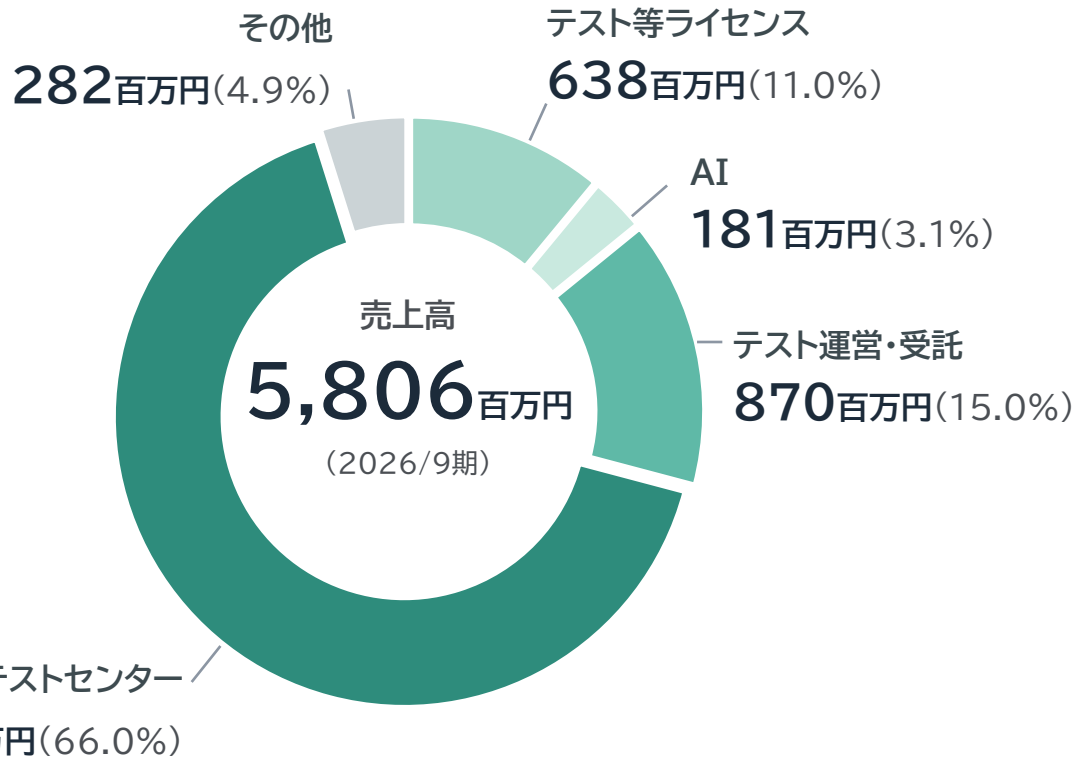
テストの作問、システム構築、
管理・運営・採点等に関するサービスを提供

テストセンター事業

コンピューターを使用した試験やテストを実施する
テストセンターを全国に設置・運営

AI事業

AIを活用した手書き文字認識サービス「DEEPREAD」、
英語ライティング学習サービス「UGUIS.AI」などを展開



テスト等ライセンス事業(1/2)

教育機関、民間企業、個人向けの英語オンラインテスト「CASEC」、児童・幼児向けの英語学習およびテスト「英検Jr.」などの語学を中心としたサービス、並びに英検4-5級のスピーキングシステムなどを提供

収益は利用者数、受験者数に応じて計上

主要サービス

CASEC

20年以上実績のあるCAT(コンピューター適応型テスト)を用いた英語コミュニケーション能力テスト
約40-50分という短時間で精度高く能力測定が可能

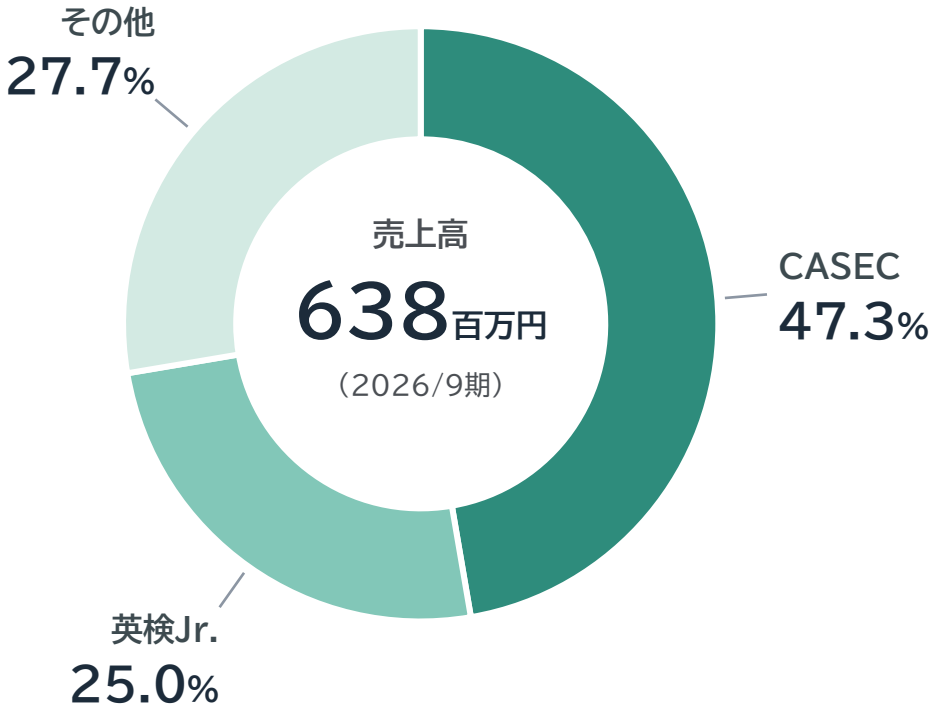
CASEC Speaking

初~中級者を対象としたオンラインの英語スピーキングテスト
実際の場面で使われるリアルな英語にこだわって設計された新しい形の英語コミュニケーションテスト

英検Jr.

読み書き前の幼児から児童・生徒まで、幅広い年代で活用できる子ども向け英語教材
英検Jr.テストに加え、英語リスニング教材も展開し、子どもが楽しく「学習」と「力試し」を行える英語学習システム

サービス別売上高内訳



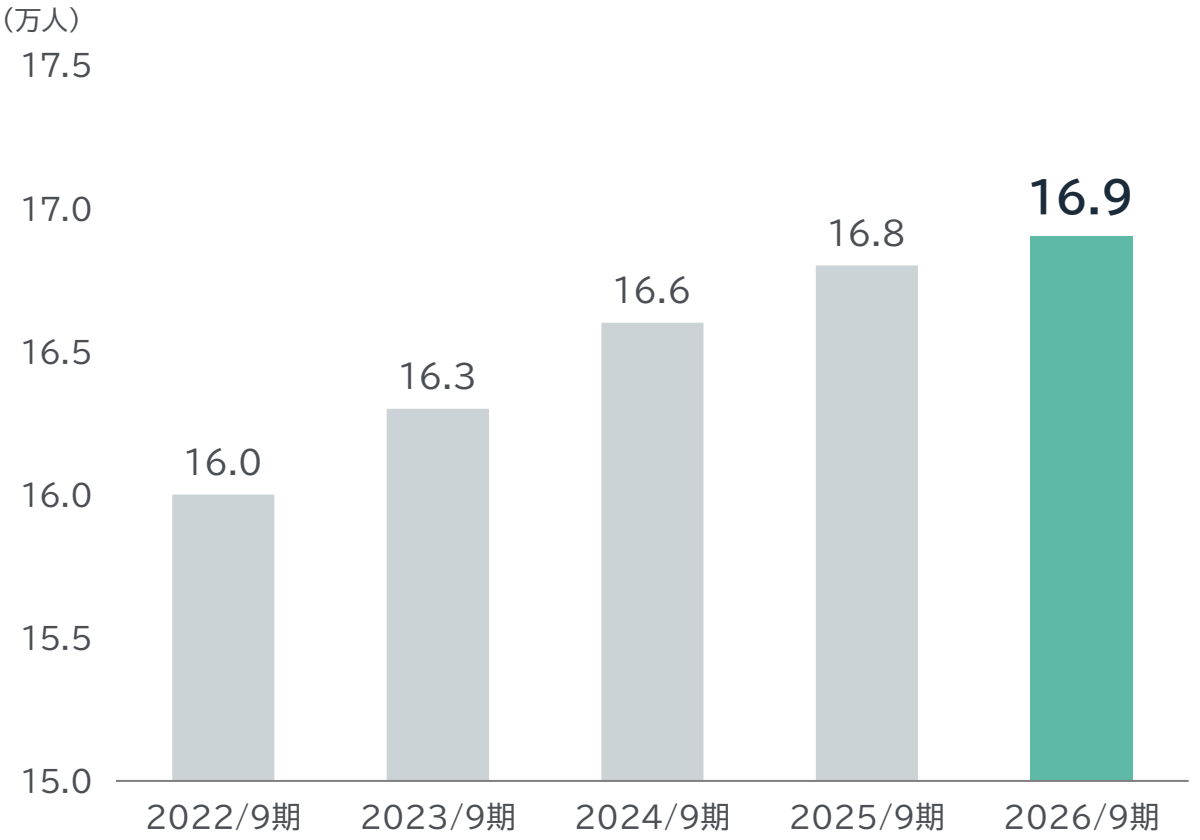
テスト等ライセンス事業(2/2)

CASECは短時間で高精度に英語力を測定でき、英語力の経過観察も可能な点が特徴。主に大学や企業で利用されている
CASECの受験者数は直近期で16.9万人

CASECの概要

特徴	• 短時間で高精度に英語力を測定 • 継続的に英語力の変化を追える • 英語初級から上級まで対応 • TOEICスコアや英検級の目安も表示
利用用途	**大学** クラス分け(プレイスメントテスト)、 到達度を測るアチーブメントテストでの利用 **企業** 昇格・異動の条件として、 自己啓発支援の一環としての利用
導入実績	立命館大学 / 学習院大学 / 大阪成蹊大学 / 桜美林大学 / 九州産業大学 鈴鹿大学 / 金沢星稜大学 / 盛岡大学 / 武蔵野大学 他

CASEC受験者数※の推移



※各年度は4月から翌年3月までを集計

© EduLab, Inc.

AI事業

自社で研究開発したAI技術を用いたサービス・製品を提供

AI自動採点ソリューション技術を応用した英語ライティングサービス「UGUIS.AI」、AI自動採点ソリューション「DEEP GRADE」、手書き文字の読み取りが可能なAI-OCR商品「DEEP READ」の3サービスを提供

UGUIS.AI

AI自動採点ソリューションの技術を応用した
英語ライティング学習サービス

利用用途

- 英検®ライティング対策
- 大学入試対策　自由英作文
- 英作文添削

主な顧客　中学 / 高校 / 大学 / 塾 / 英会話学校

DEEPGRADE

ChatGPTを活用した
AI自動採点ソリューション

利用用途

- 記述問題の採点に利用
- 採点の負荷軽減と共に、採点のブレを防ぐ品質向上のために利用

主な顧客　大学 / 塾

DEEPREAD

手書き文字の読み取りが可能な
AI-OCR商品

利用用途

- 手書きの請求書、申請書等を自動で読み取り、データ化
- 入力作業の短縮を目的として利用
- 手書きの答案・記述文字を自動で読み取りデータ化（誤答を正答とみなさないための辞書機能オフ設定に対応）

主な顧客　BPO / 銀行 / 保険

© EduLab, Inc.

テスト運営・受託事業

テストの設計や問題作成から印刷、配送、採点、集計、分析、システム構築まで、テストの実施・運営に必要な機能を提供
国・地方公共団体等の公的機関や大学等の教育機関を中心に、入札形式での公共案件を多数受託
コンテンツの開発・分析・運用の受託や、教育機関・民間企業を対象にテスト分析やコンサルティングサービスも提供

テスト運営

テストの実施・運営に必要な機能をワンストップで提供

設計 → 作問 → 実施準備 → 実施（会場運営） → 採点 → 分析 → フィードバック

主な受託案件歴

文部科学省	全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（小学校事業・中学校事業）
	セキュアな環境における生成 AI の校務利用の実証研究事業
国立教育政策研究所	OECD-国際学力到達度調査（PISA）
	IEA-国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）
	OECD-国際教員指導環境調査（TALIS）
スポーツ庁	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
埼玉県	学力・学習状況調査

テスト開発・分析受託

- テスト分析・コンサルティングサービス

テスト分析

テスト事業者向けに、実施したテストの性質の把握や、受験者の能力を正しく理解するための分析サービス

テスト構築支援

新しい資格試験の構築や、既存テストのコンピュータ化など、テスト構築に関わるコンサルティング

- **テストのコンテンツ開発・分析・運用の受託**

  各種検定や模試等の採点業務に加え、テストコンテンツの設計・開発・分析・運用支援を実施
  教育機関や企業のアセスメントの高度化を、総合的にサポート

© EduLab, Inc.

テストセンター事業

公平・公正な環境下でCBT※の実施を可能とするテストセンターを全国に設置
各種資格・検定試験、大学入試などに、テストセンターを提供

テストセンター事業 概要

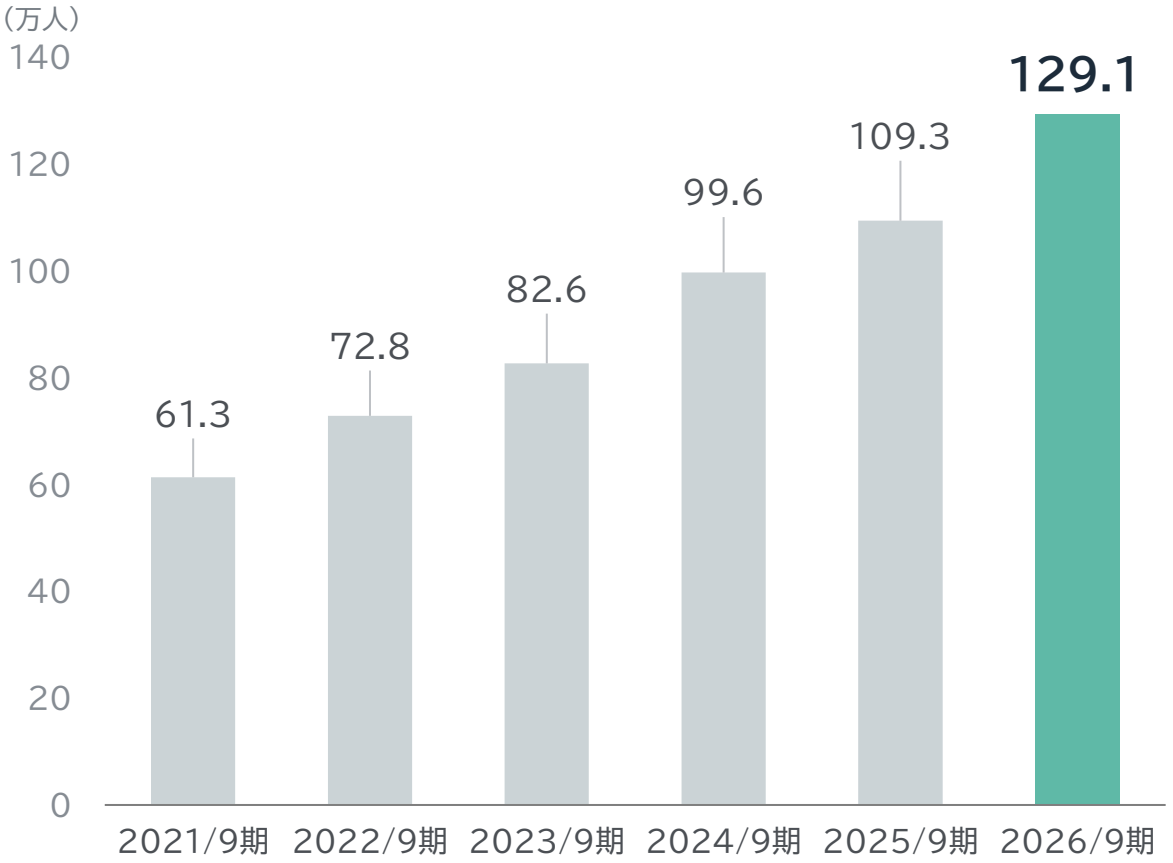
- CBT※の実施を可能とするテストセンターを全国に設置
- 各種資格・検定試験のCBT受験にテストセンターを提供
- 受験者の受け入れ、PC整備、試験監督等を行う

直営会場は国内最多




テストセンターの内装（新宿NSビル旗艦校）

テストセンター利用者数の推移



※「Computer Based Testing」の略で、コンピュータを利用して実施する試験方式

事業・サービス別対象マーケット

テスト等ライセンス事業、AI事業では自社プロダクトを主に学校や塾などの教育機関や個人向けに展開。エンドユーザーの多くは英語学習者
テスト運営・受託事業、テストセンター事業は国・自治体や試験実施団体からの受託業務を行う

		B to B					B to C
セグメント	サービス名	国・自治体	試験実施団体	企業	学校	塾	個人
テスト等ライセンス	CASEC			●	●	●	●
	英検Jr.®					●	●
AI	UGUIS.AI				●	●	●
	DEEP GRADE	●	●		●	●	
	DEEP READ	●	●	●			
テスト運営・受託	テスト運営／テスト開発・分析／コンテンツ・システム開発	●	●				
テストセンター	テストセンター運営／CBT運営構築	●	●				

※CASEC、英検Jr.®、UGUIS.AI、DEEP GRADE、DEEP READは自社プロダクト、その他は業務受託

© EduLab, Inc.

2026年9月期 決算実績

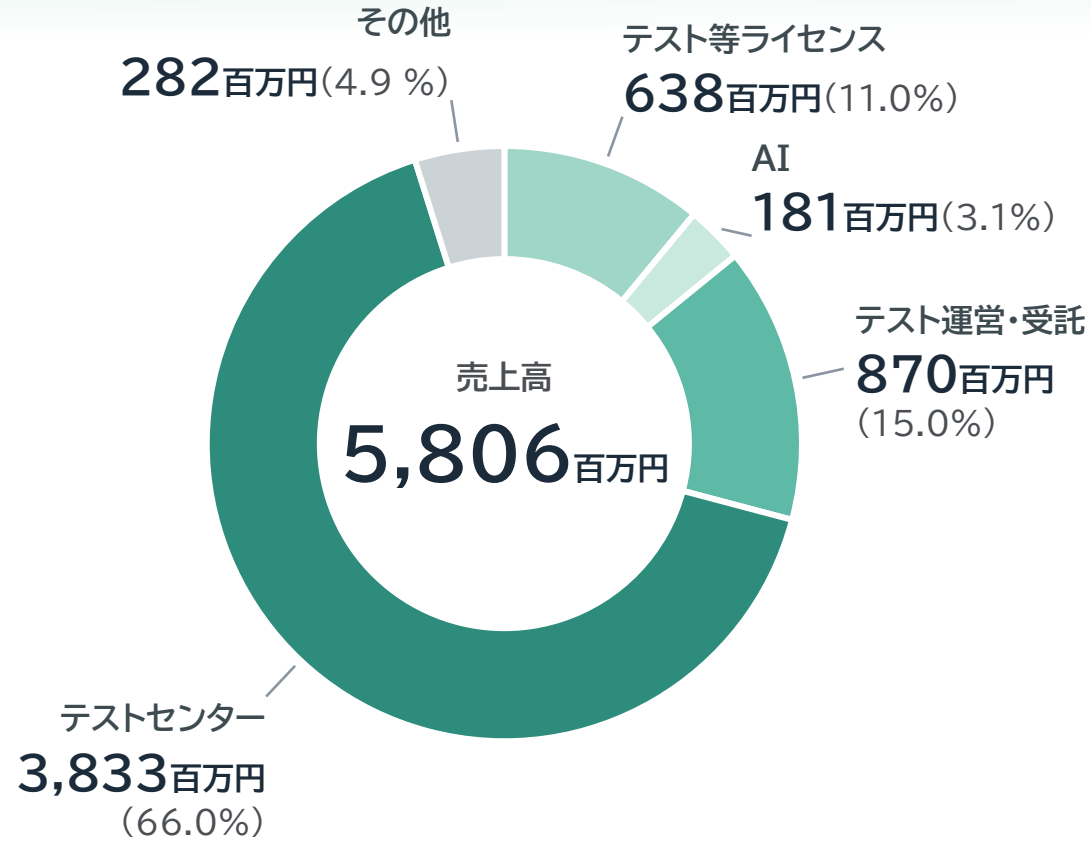
2026年9月期　連結損益計算書（PL）ハイライト

- ✓売上高は、テストセンター事業における増収の影響がある一方、テスト運営・受託事業で前期には含まれていた一部案件について、当期には剥落したことの減収要因が上回り減収となりました。
- ✓費用面では、売上原価・販売管理費が前期比減少の結果、営業利益は黒字を維持しました。
- ✓投資有価証券評価損55百万円、投資事業組合費37百万円、為替差損21百万円、支払利息10百万円等の営業外費用131百万円がありましたが、経常利益も黒字を維持しました。
- ✓弁護士費用に係る保険金収入167百万円の特別利益がありましたが、将来に損失を繰り延べないためのソフトウエア減損損失280百万円、米国連結子会社の特別退職金等54百万円等の特別損失341百万円、法人税等176百万円、および非支配株主持分利益（費用）125百万円により、親会社株主に帰属する当期純利益は純損失となりました。

（単位：百万円）	2025年9月期 実績	2026年9月期		増減率 前年対比	増減率 計画対比
		計画（2025年11月発表）	実績		
売上高	6,229	5,800	5,806	△6.7%	+0.1%
売上総利益	2,055	1,680	1,833	△10.7%	+9.1%
販売費及び一般管理費	1,663	1,750	1,635	△1.7%	△6.5%
営業利益	391	80	198	△49.3%	+147.8%
経常利益	450	20	94	△79.0%	+371.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	16	10	△381	—	—

© EduLab, Inc.

2026年9月期　セグメント情報



（報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更）
当連結会計年度より、事業セグメントごとの業績をより適正に評価管理するために、部門間の共通費の集計・配賦方法を変更しており、報告セグメントの利益の算定方法を変更しております。
なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の算定方法に基づき作成しております。

（単位：百万円）		2025年9月期	2026年9月期	前年対比
テスト等ライセンス	売上高	684	638	△6.7%
	セグメント利益	145	155	+7.1%
AI	売上高	369	181	△50.8%
	セグメント利益	162	△46	—
テスト運営・受託	売上高	1,516	870	△42.5%
	セグメント利益	371	117	△68.4%
テストセンター	売上高	3,274	3,833	+17.0%
	セグメント利益	290	501	+72.5%
その他*	売上高	384	282	△26.4%
	セグメント利益	109	74	△32.5%
全社費用		△688	△603	△12.3%

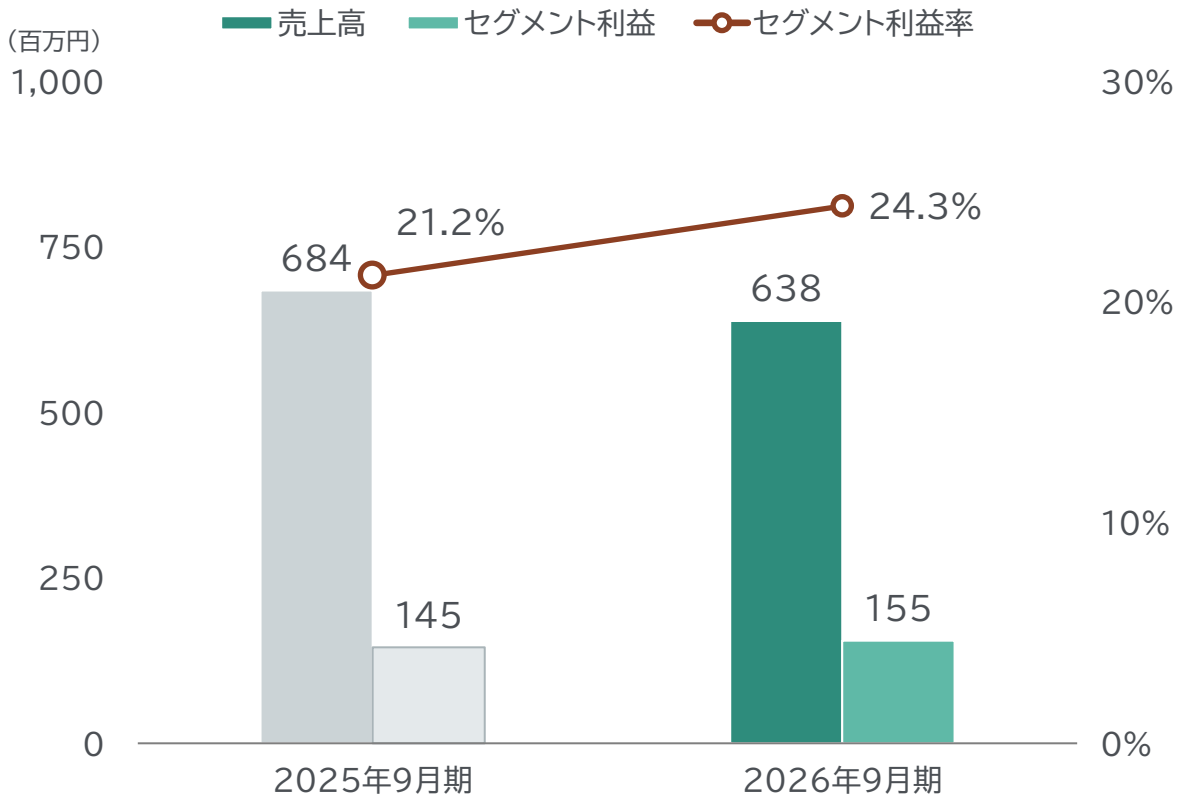
＊ 2024年3月に教育プラットフォーム事業から撤退。サービスを継続した広告事業を「その他事業」として計上

© EduLab, Inc.

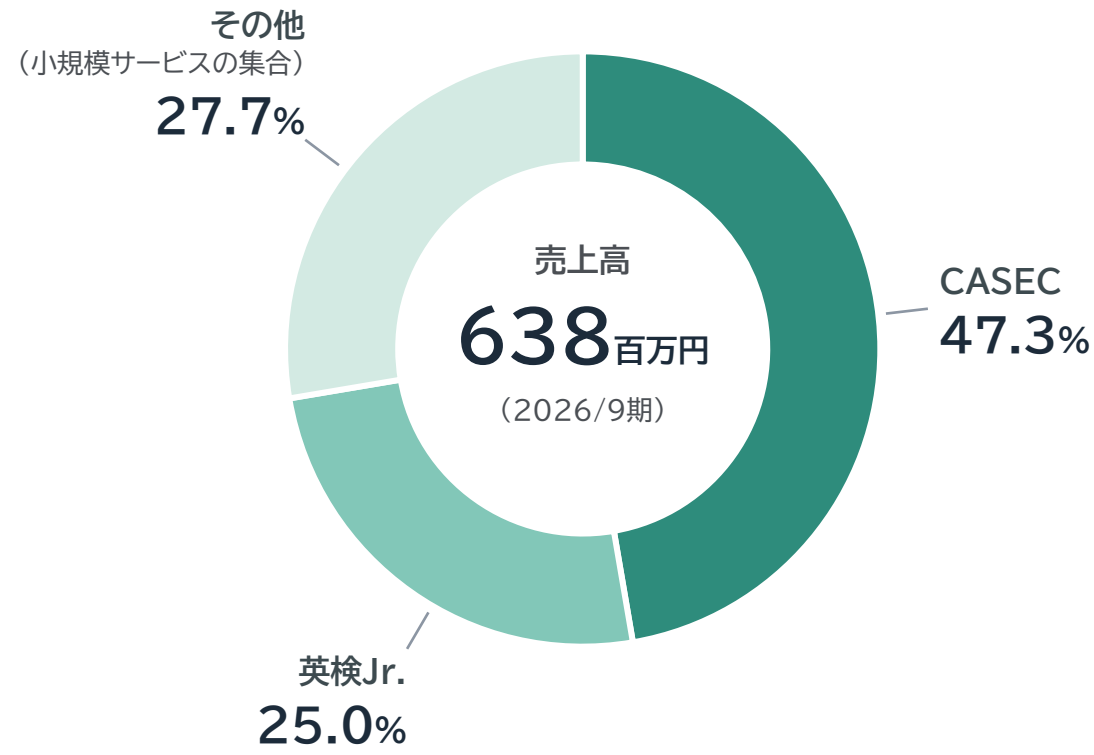
2026年9月期 セグメント情報 － テスト等ライセンス事業

事業構造改革の一環で、一部サービスにつき、2025年9月期下半期以降終了したため、当該セグメントの売上高は減収となりました。
コストの合理化による経費削減効果でセグメント利益、利益率とも増加しました。

売上高・セグメント利益・利益率



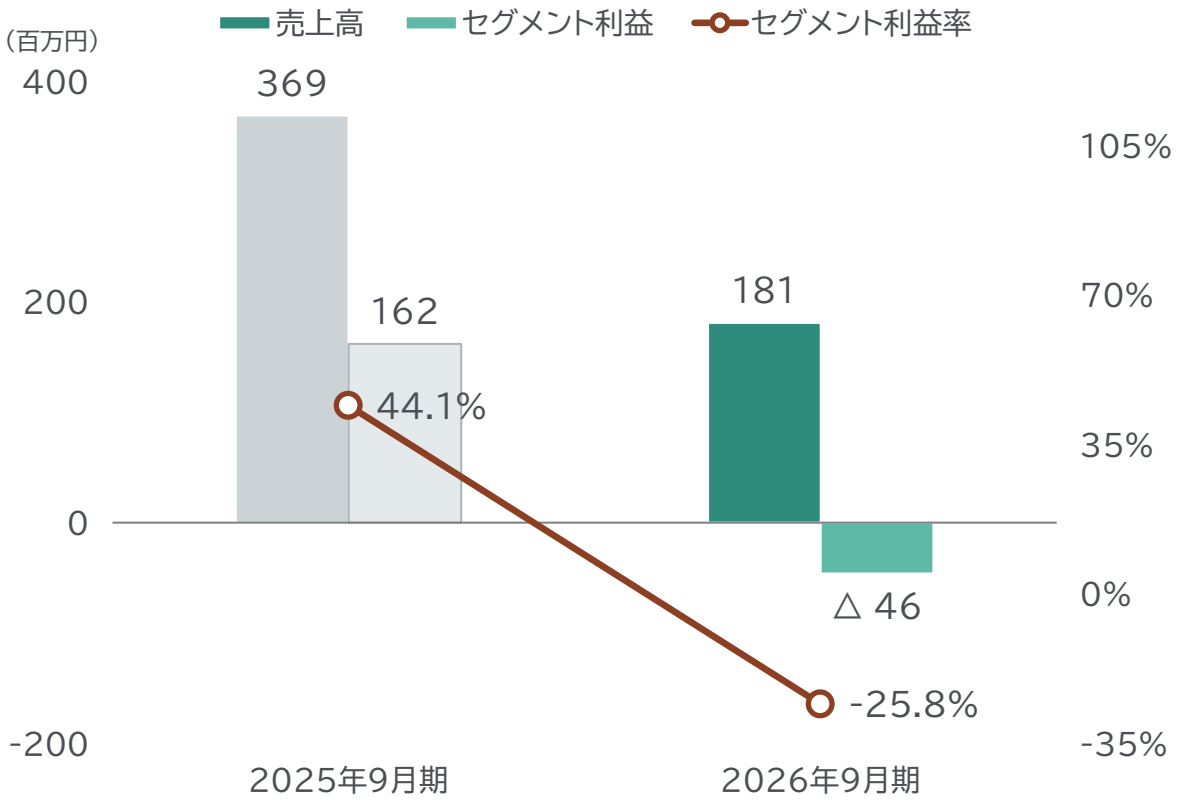
サービス別売上高構成比



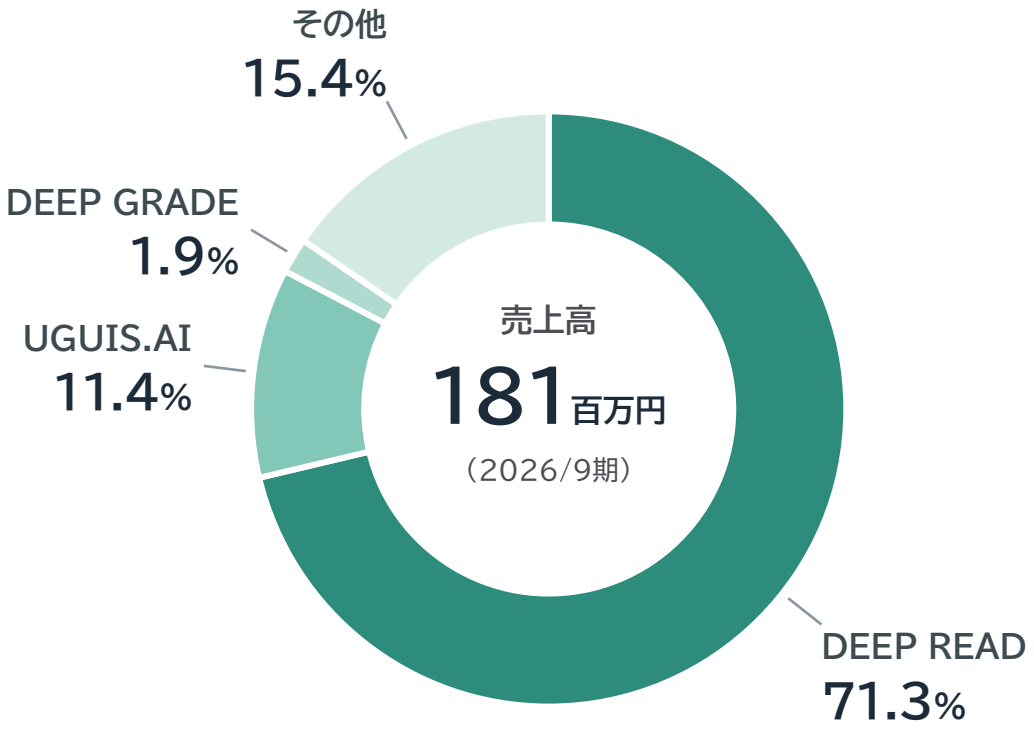
2026年9月期 セグメント情報 － AI事業

テスト運営・受託事業の公共案件の減収に伴い、そこで採点の合理化に寄与する予定であったDEEP READの売上が減少したこと、英語ライティング・スピーキング学習サービスのUGUIS.AIの拡販が伸び悩んだ結果により、売上高、セグメント利益とも前期比減少となりました。

売上高・セグメント利益・利益率



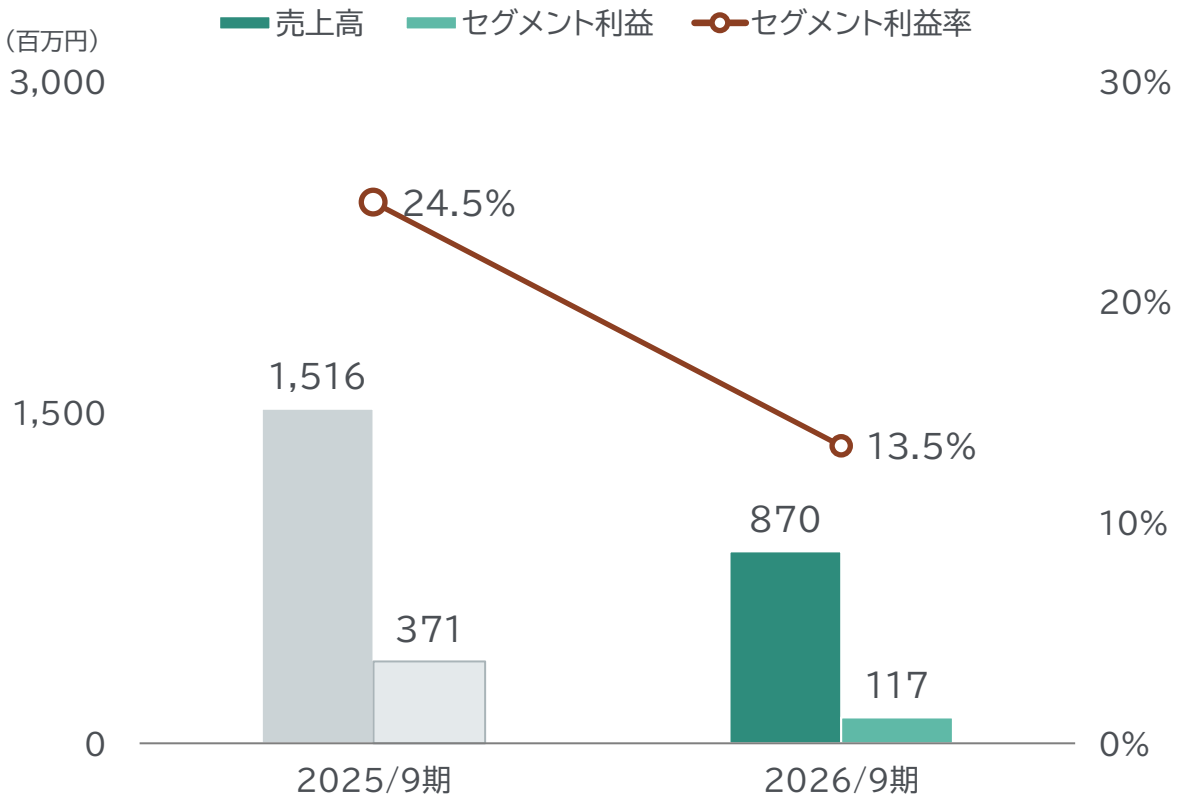
サービス別売上高構成比



2026年9月期　セグメント情報　－　テスト運営・受託事業

一部公共案件の減少、及び前連結会計年度の単年度受注した一部案件の剥落により大きく減収となったことから、売上高、セグメント利益とも前期比減少となりました。

売上高・セグメント利益・利益率



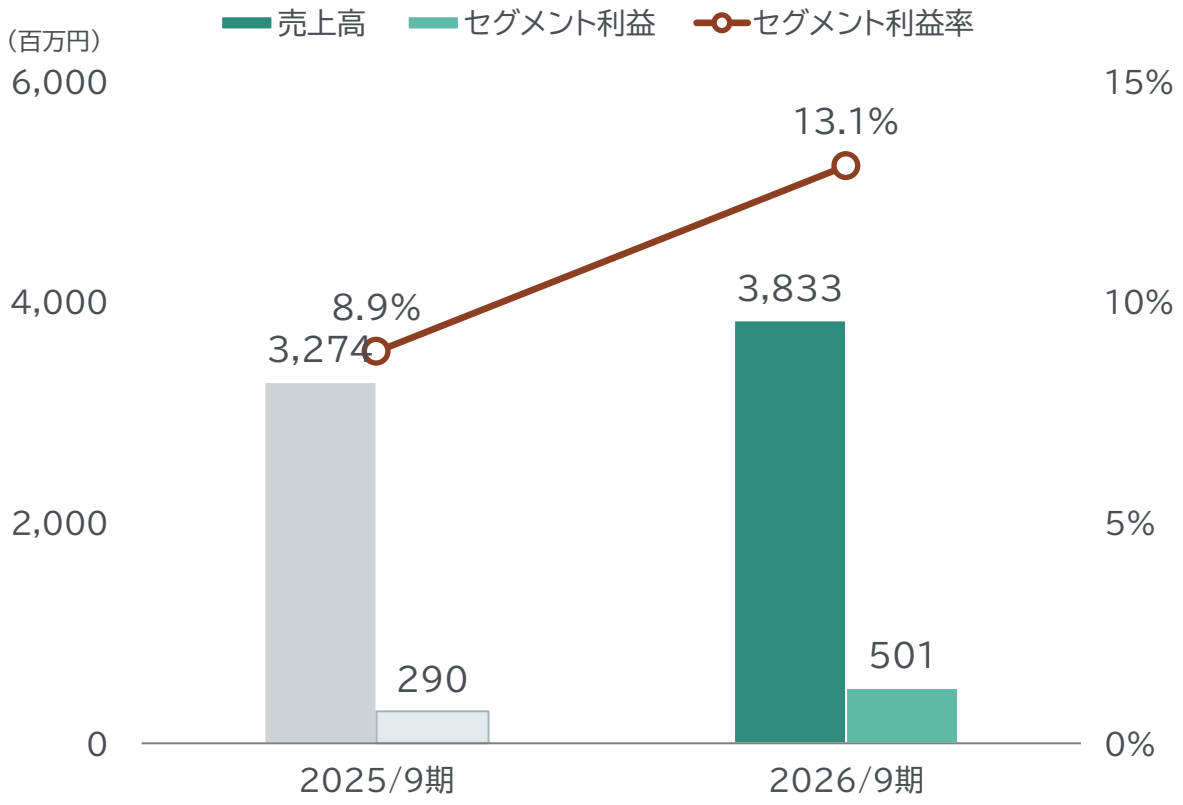
2026年9月期 主な受託案件

発注機関	案件名
文部科学省	令和7年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（小学校事業）
文部科学省	セキュアな環境における生成AIの校務利用の実証研究事業
スポーツ庁	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
国立教育政策研究所	OECD-国際学力到達度調査（PISA）2025年本調査支援業務（2025年度）一式

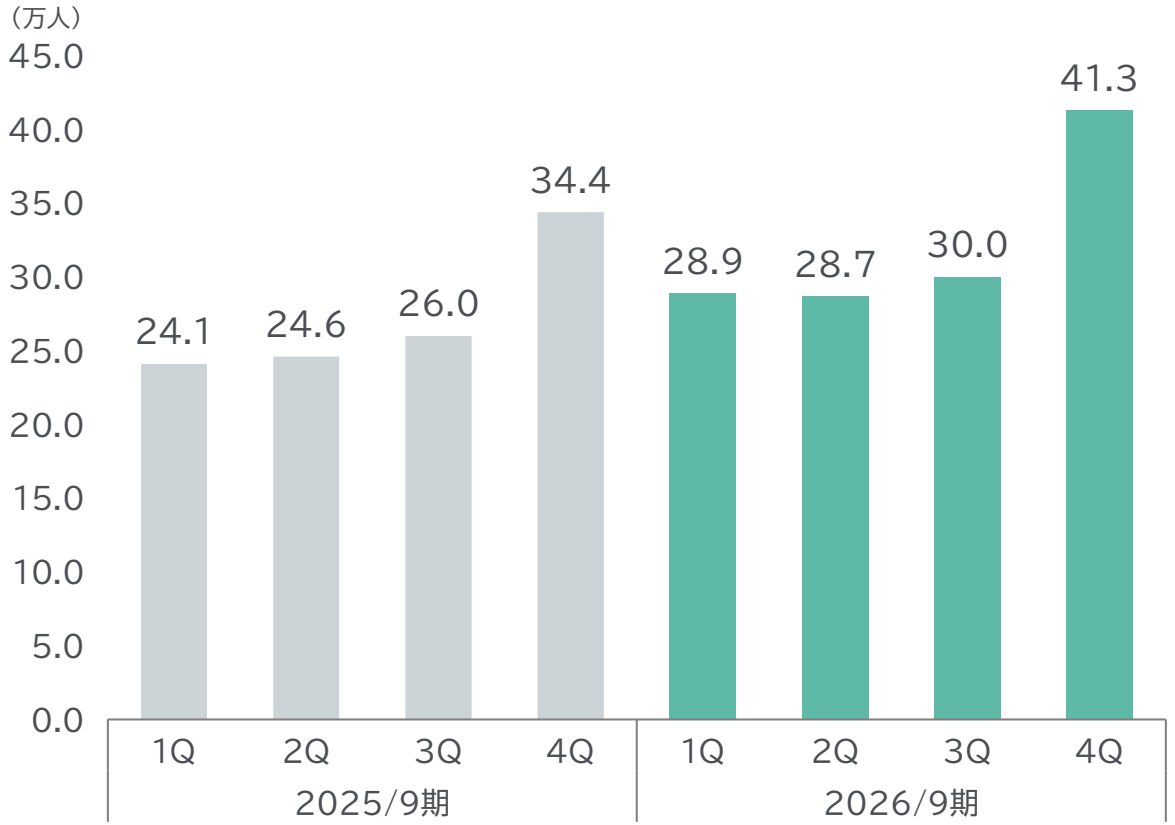
2026年9月期 セグメント情報 － テストセンター事業

テストセンター利用者数が大幅に伸長したことにより増収増益となりました。
運営体制・業務の最適化によりセグメント利益率も上昇しました。

売上高・セグメント利益・利益率



テストセンター利用者数の推移



2026年9月期　連結貸借対照表（BS）ハイライト

有利子負債の返済に伴い現預金が減少しました。
AI事業のコンテンツ開発に伴うソフトウエアの減損損失により、無形固定資産が減少となりました。
2026/9期末の自己資本比率は32.1%（計算式：（純資産－非支配株主持分等）／総資産）となりました。

（単位：百万円）

資産の部	2025年9月末	2026年9月末	増減額
流動資産	2,818	2,472	△345
現預金	1,386	1,280	△106
売掛金	703	806	+103
固定資産	789	671	△118
有形固定資産	107	129	+22
無形固定資産	231	76	△155
資産合計	3,607	3,143	△464

負債・純資産の部	2025年9月末	2026年9月末	増減額
買掛金	206	217	+10
有利子負債	515	395	△120
負債 計	1,777	1,518	△259
純資産 計	1,830	1,625	△205
負債・純資産合計	3,607	3,143	△464

© EduLab, Inc.

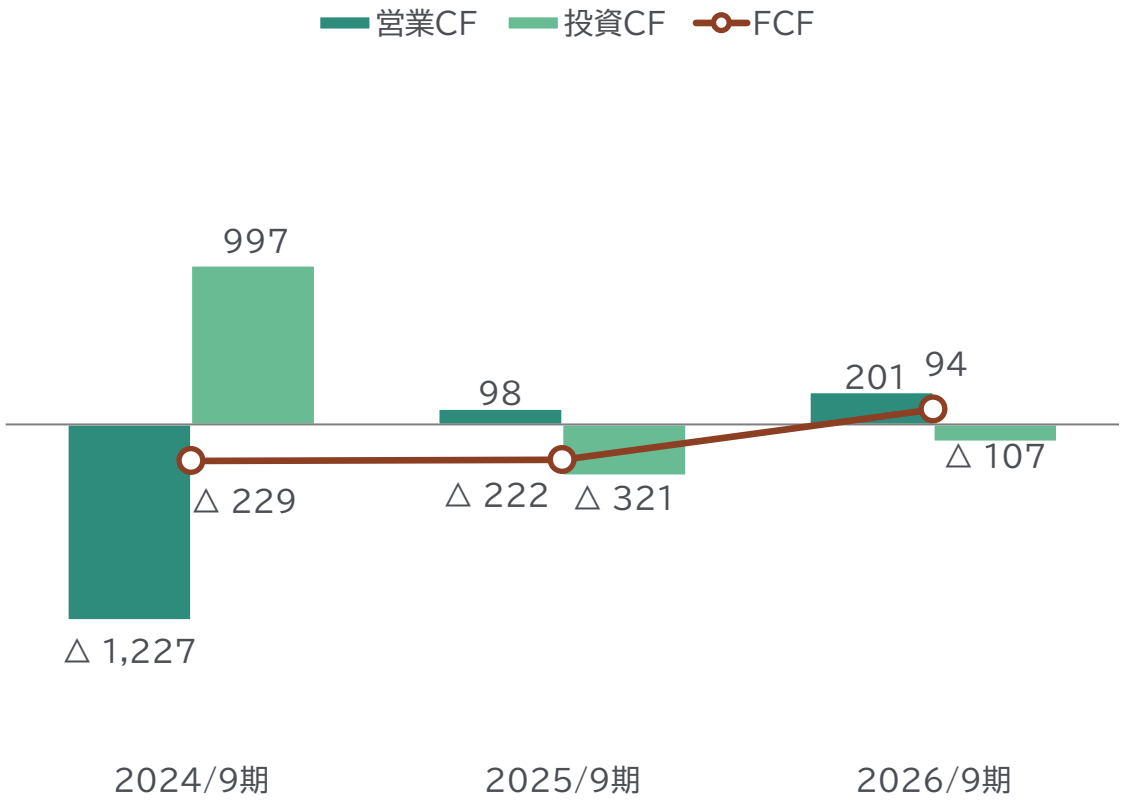
2026年9月期　キャッシュ・フローの状況

営業キャッシュ・フローの収入201百万円の主な要因は、税金等調整前当期純損失79百万円に対して、減価償却費65百万円、ソフトウエア等の減損損失280百万円などの非資金項目等の増加要因がある一方で、契約負債77百万円減少などの減少要因の影響がありました。

投資キャッシュ・フローの支出△107百万円の主な要因としては、ソフトウエア開発による無形固定資産の取得175百万円、本社移転に伴う有形固定資産の取得37百万円、敷金差入れ36百万円等のマイナス要因、および定期預金の取り崩し100百万円、本社移転の敷金回収66百万円のプラス要因があります。

財務キャッシュ・フローの支出△108百万円の主な要因は、長期借入金の返済120百万円です。

営業CF、投資CF、FCFの推移



	2024年9月期	2025年9月期	2026年9月期
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,227	98	201
投資活動による キャッシュ・フロー	997	△321	△107
財務活動による キャッシュ・フロー	△900	△119	△108
期末現金及び現金同等物	1,571	1,236	1,230
フリーキャッシュ・フロー （営業CF＋投資CF）	△229	△222	94

2027年9月期 業績予想

© EduLab, Inc.

2027年9月期 業績予想

売上高は、テストセンター事業でCBT受験者が大幅に増加することが見込まれること、受託事業での案件受託が見込まれることから増収見込み。
利益面では、成長戦略のための開発費用増加等から営業利益は前年並みの200百万円を見込む。
前期において将来に損失を繰り延べないための減損損失などの損失処理を終えていること、グループ通算税制適用による法人税の低減、および非支配株主持分利益(費用)低減により、親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化を目指す。
(詳細は、2026年11月12日公表の「中期経営計画2029」をご参照ください。)

	2025年9月期 実績	2026年9月期 実績	2027年9月期 業績予想	増減率 前年対比
売上高	6,229	5,806	6,500	+11.9%
売上総利益	2,055	1,833	2,000	+9.0%
販売費及び一般管理費	1,663	1,635	1,800	+10.0%
営業利益	391	198	200	+0.8%
経常利益	450	94	150	+59.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	16	△381	50	黒字化

© EduLab, Inc.

2026年9月期のPR開示

© EduLab, Inc.

英語学習サービス「UGUIS.AI」、英検®スピーキング対策（β版）を提供開始

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所が、英語学習サービス「UGUIS.AI」に新たに英検®スピーキング対策機能を開発し、ベータ版として公開いたしました。英語教育の変化に伴う指導者と学習者双方の課題を解決することを目的に、教育測定分野で培った知見とAI技術を融合。英語ライティング学習サービスであったUGUIS.AIはスピーキングにも対応し、アウトプット学習をさらに強化いたしました。

英検®スピーキング対策の主な特徴



■提供コンテンツ

英検®2級の「受験者自身の意見を問う質問」に対応し、ベータ版として先行公開いたします。
（※ベータ版は無料でご利用いただけます）

■AI即時採点とフィードバック

利用者の発話した音声をAIが即時に採点・分析し、フィードバックを提供することで指導者の負担を軽減します。
AI音声認識技術と自然言語処理技術により、発音の正確性、流暢さ、論理性を総合的に評価し、具体的な改善点を提示します。

■英検®S-CBT を再現した画面でスピーキング対策

英検®二次試験を想定した模擬テスト形式の画面で、実際の試験に近い練習ができます。録音した自分の解答は自動で文字化され、振り返りやすいのも特徴です。

■「聞いて」「まねして」学習サイクルをサポート

自分の音声を録音・再生しながら正しい発音と比較することで、学習者自身のギャップを確認できる仕組みを提供。
合格に向けた実践的なトレーニングにより短期間での上達に貢献します。

■UGUIS先生が正しい発音を教えてくれるAIチャット機能

「UGUIS 先生」が進化し、添削結果や解答内容に関する疑問をチャット形式で気軽に相談が可能。その場で疑問を解消でき、音声での正しい発音もサポートします。



AIチャット機能「UGUIS先生」

大阪教育大学にて「中等教育の英語教育シンポジウム －教師が生成AIと創る新しい学びのかたち！ライティング指導の最前線－」を開催

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、2025年12月20日(土)に、大阪教育大学 天王寺キャンパスにて「中等教育の英語教育シンポジウム －教師が生成AIと創る新しい学びのかたち！ライティング指導の最前線－」を開催いたしました。当日は、安河内哲也氏(一般財団法人実用英語推進機構 代表理事)や松下信之氏(大阪府教育庁 教育振興室高等学校課 参事)等をお招きし、教育委員会・中学校・高等学校の英語教員等を対象に、生成AIを活用した英語ライティング指導の最前線を考えました。

シンポジウムの実施内容

■開催の背景

令和6年度全国学力・学習状況調査では、中学校3年生英語の「書くこと」に関する到達状況(学力スコア)が令和3年度と比べて低下しており、文部科学省は「コミュニケーション量や学習意欲、家庭学習時間の確保、即時フィードバック、既習事項の定着などが課題」と指摘しています。そうした中、ChatGPTなどの生成AIの登場により、教育現場における生成AIの活用機会は急速に広がっています。先生方にとっては、準備時間を短縮しながら効果的な英語ライティング指導を行うための新たな手段となり、生徒にとっては、短期間で表現力を高めるためのツールとして期待が高まっています。本シンポジウムでは、登壇者および「UGUIS.AI」を活用している先生方をお招きし、英語ライティング指導の最前線の実例・活用法、その先の指導法・活用法を皆さまと共に考えました。

■登壇者

安河内 哲也 氏(一般財団法人 実用英語推進機構 代表理事)
松下 信之 氏(大阪府教育庁 教育振興室 高等学校課 参事)
片岡 夏子(株式会社教育測定研究所 執行役員 研究開発本部長)
学校法人大阪明星学園 明星中学校 明星高等学校(UGUIS.AI 活用校)
学校法人羽衣学園 羽衣学園中学校・高等学校(UGUIS.AI 活用校)

【シンポジウム概要】

日時:2025年12月20日(土)15:00～17:30
会場:大阪教育大学 天王寺キャンパス 西館ホール
対象:教育委員会および中学校・高等学校等の教育機関に所属する教職員
主催:株式会社教育測定研究所

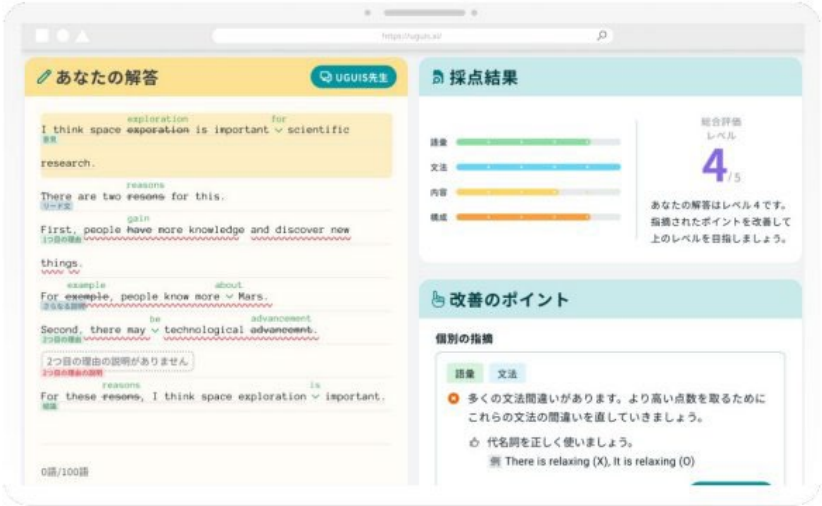
© EduLab, Inc.

AIが英語学習を個別診断！“学びの見える化”でやる気を引き出す『UGUIS.AI』新機能

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、AIを活用した英語学習サービス「UGUIS.AI」において、AIチャット「UGUIS先生」に新たに“学習診断機能”を追加いたしました。本機能により、学習者の学習履歴をもとに自動分析を行い、一人一人の学習状況やつまずき・強みを可視化することで、より効果的なAIによる個別指導を実現いたしました。

UGUIS.AIについて

UGUIS.AIは、AI技術を活用した英語学習を支援するサービスです。英検®のライティング・スピーキングや大学入試の英作文に対応しており、本番さながらの問題をAIが自動生成して出題します。また、学習者が解答すると即時に採点・添削し、その場で的確なフィードバックを返します。指導者は、UGUIS.AIを通じて一人一人の答案を確認する負担を減らしながら、より本質的な指導に集中できるようになることで、指導効率だけでなく学習者の学習効率も大きく改善できるようになっていると好評をいただいています。



いつでも質問できる「UGUIS 先生」に学習診断機能を追加

今回のアップデートにより、AIチャット「UGUIS先生」が学習者の学習履歴を総合的に分析し、個別に診断する“学習診断機能”を搭載いたしました。学習者個人の学習傾向・強み・弱みなどを自動で整理・分析し、「今の力」と「次に伸ばすべきポイント」をわかりやすく表示することで、学習者がいま行うべき学習を提案します。

■指導者とともに、学習者の成長を見守る

蓄積された学習データをもとに、よく間違えるポイントや改善の傾向を自動的に整理・可視化することで、学習者の自立学習の促進と、指導者による指導・伴走の双方に役立てられるようになりました。これにより、指導者はAIと役割を分担しながら、学習者が主体的に学ぶ環境づくりに力を注ぐことができます。

■理解を深める質問機能搭載

「ライティングの練習方法は？」など、あらかじめ用意された質問をワンクリックで選べるほか、学習者が入力した質問にもUGUIS先生が回答します。さらに、「よく間違えた文法を具体的に教えて」といった詳細なアドバイスも受けられるようになり、指導者はUGUIS先生と共に学習者の取り組みを見守り、自律的に理解を深め成長していくプロセスを支援できます。

EduLabのAI-OCR「DEEP READ」、パートナー連携による導入事例が「SUCCESS STORY AWARD 2025」現場DX部門を受賞
～パートナーによる「伴走型支援」で実現した、中小企業における現場DXの成功モデル～

当社が提供するAI-OCRソリューション「DEEP READ」の導入事例である東邦産業株式会社様での取り組みが、IT製品・SaaSの比較サイト「デジタル化の窓口」が主催する「SUCCESS STORY AWARD 2025」において、「現場DX部門」を受賞いたしました。本事例は、販売・導入パートナーである株式会社トラスト様の支援により実現したものであり、中小企業のDX推進における「パートナー連携」の重要性を示すモデルケースとして高く評価されました。

受賞事例：東邦産業様の取り組み

東邦産業様では、紙の納品書管理による「情報の分断」が課題でした。これに対し、パートナーである株式会社トラスト様が「DEEP READ」を活用したデータ化代行（BtoBtoBモデル）を提供。これにより、移動時間や確認の手間の削減や、事務員の入力業務からの解放など、会社全体としてのDXと業務効率化を実現しました。

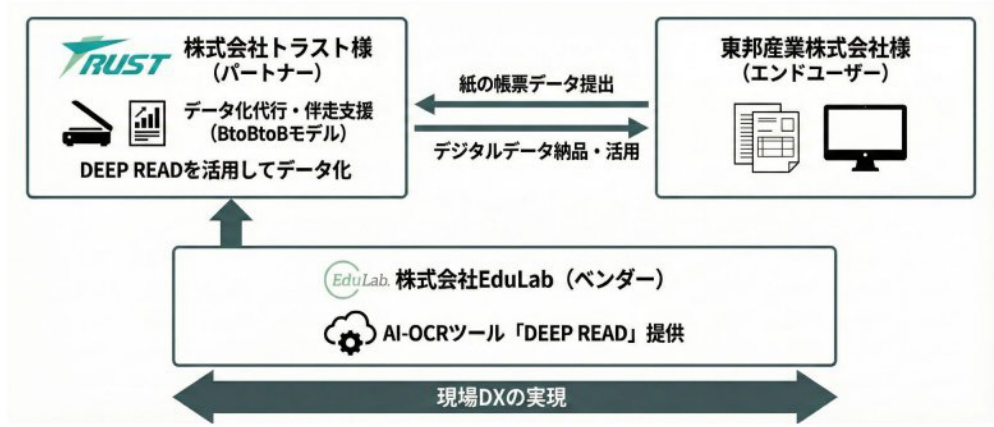
パートナーシップの重要性を実証

本事例は、単なるツールの導入にとどまらず、「適切なツール選定」と「パートナーの伴走支援」があれば、企業規模を問わず現場DXは実現可能であることを実証しました。中小企業が抱える「デジタル化の人材不足」や「導入後の定着」という課題に対する解決策として評価されています。

DEEP READについて

ディープラーニングに基づくAIを活用したAI-OCRサービスです。活字のみならず手書き文字も瞬時にデジタル化することが可能です。業界トップレベルとなる9割以上の精度でのデジタル化を可能にし、金融業界などの企業や医療機関、学校法人などに幅広くご活用いただいています。

■受賞事例：東邦産業様の取り組み



英検Ⓡ級の目安を最短10分で測定！
オンライン測定サービス「英検Ⓡ級かんたん測定 powered by CASEC」提供開始

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、英検Ⓡ級の目安を短時間で測定できる「英検Ⓡ級かんたん測定 powered by CASEC」を開発、提供を開始しました。本サービスは、受験者の現在の英語力がどの英検Ⓡ級に相当するかを10～15分で判定します。すでに一部の学習塾で活用されており、今後さらに提供を拡大してまいります。

開発の背景

教育現場では、「英検Ⓡ対策講座の前に、生徒の『現在の級レベル』を短時間で把握したい」「英検Ⓡをきっかけに学習意欲を高めたいが、目安級が分からず困っている」といった課題が寄せられていました。こうした課題に応えるため、当社が20年以上にわたり培ってきた英語測定の知見とテスト理論を基に、短時間で英検Ⓡ級の目安を測定できる「英検Ⓡ級かんたん測定」を開発しました。

「英検Ⓡ級かんたん測定」と「CASEC」の役割の違い

「CASEC」が「総合的な英語コミュニケーション能力診断」として活用されるのに対し、本サービスは「英検Ⓡの受験に向けたレベル把握」を中心としています。用途と対象者が明確に異なることで、学習者の幅広いニーズに対応できるラインアップとなっています。

「英検Ⓡ級かんたん測定 powered by CASEC」とは

英語の語彙や表現の穴埋め問題に解答することで、現在の「英検Ⓡ級の目安」を測定するオンラインサービスです。所要時間は約10～15分で、受験直後に英検Ⓡ級の目安が確認できます。


英検®級
かんたん測定
powered by CASEC
結果レポート
あなたの現在の英語力を、英検®級の目安としてお知らせします。
この結果をもとに、次の目標や学習のヒントを見つけましょう。
受験者ID：ABCDE１２３４５
受験日：2025年10月15日
あなたの英検®級の目安
４級（中学中級程度）
※この結果は、今のあなたの英語力に近い英検®級の目安です。合格を保証するものではありません。
あなたに合う次の目標は？
まだ４級を受けていないなら
「英検®４級合格」を目標に！
すでに合格しているなら
英検®３級の内容に少しずつトライ

結果レポート（PDF）
イメージ

■主な特徴

- **約10～15分で英検Ⓡ級の目安を測定：** 授業前後の短い時間でも実施でき、受験者の負担が少ないテストです。
- **オンラインで手軽に受験：** PC・タブレット・スマートフォンに対応し、学校・塾や自宅でも受験できます。
- **5級～準1級まで幅広く対応：** IRT による適応型出題で、受験者のレベルに応じて問題難度が変化します。
- **結果レポートをすぐ確認：** 受験直後に英検Ⓡ級の目安が表示され、レベル分けや指導計画の判断に活用できます。

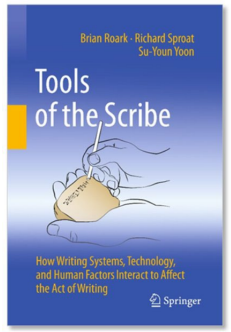
© EduLab, Inc.

英科学誌「Nature」に当社社員Yoon Su-Youn共著の書籍書評が掲載
― 言語とAIの未来を拓く知見として世界的評価
～言語、文字、テクノロジー、そして人的要因の相互作用としての「書くこと」を論じた一冊～

当社グループ会社である株式会社教育測定研究所に所属するYoon Su-Youn共著の書籍『Tools of the Scribe: How Writing Systems, Technology, and Human Factors Interact to Affect the Act of Writing』(Springer刊)の書評が、英科学誌「Nature」オンライン版(2026年1月26日公開)に掲載されました。

掲載の背景と意義

「Nature」に掲載された書評記事では、本書を、筆記システムがいかに言語そのものを形成してきたか、そして現代のテクノロジーがそれをどのように変えているかを探求する書籍として紹介しています。同誌に書評が掲載されたことは、Yoonらの研究が単なる技術解説にとどまらず、言語学的・認知科学的な観点から現代の重要課題を捉えていると国際的に認められたことを意味しております。本書は、ChatGPTをはじめとする生成AI時代の「人間とAIの協調」を考える上で重要な視点を提示しています。



【書籍情報】

- タイトル: Tools of the Scribe: How Writing Systems, Technology, and Human Factors Interact to Affect the Act of Writing
- 著者: Yoon Su-Youn 他
- 出版社: Springer International Publishing
- URL: https://link.springer.com/book/10.1007/978-3-032-00831-2

書籍概要【主なテーマ】

- 中国語やアルファベットを含む様々な文字体系の特性と技術的利点
- 筆やインクからデジタルデバイス、AIによる自動生成まで、道具の進化が人間の思考や「書くこと」に与えた影響
- ChatGPTのような生成AIのユーザーは「著者」と呼べるのかという問い

ソリューションへの応用と今後の展望

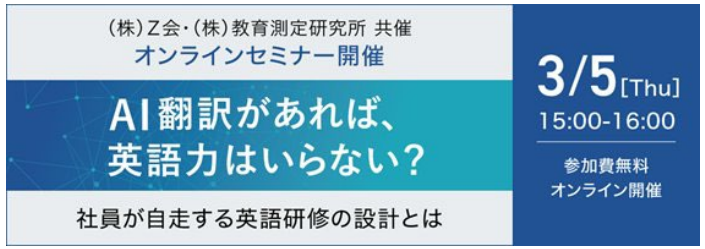
当社グループが開発するAIソリューションは、単なるデータ解析技術の応用ではなく、
「人間が文字を書き、思考するプロセス」への深い科学的理解を基盤としています。

- 学習支援AI「UGUIS.AI」: 言語学と自然言語処理の専門的知見を活用し、学習者の思考プロセスに寄り添ったフィードバックを実現しています。
- AI-OCR「DEEP READ」: 「人間がどのように文字を形成するか」という認知的・身体的プロセスをアルゴリズムに組み込み、高い認識精度を実現しています。

今回の評価は、当社の知見と専門性が国際的な科学コミュニティにおいて評価されたものです。

Z会×教育測定研究所 共催ウェビナー
「AI翻訳があれば、英語力はいらない？― 社員が自走する英語研修の設計とは ―」を開催

当社グループ会社である株式会社教育測定研究所は、株式会社増進会ホールディングス（Z会グループ）グループ会社である株式会社Z会と2026年3月5日（木）に、共催ウェビナー『AI翻訳があれば、英語力はいらない？― 社員が自走する英語研修の設計とは ―』を開催いたしました。当日は、「教育測定技術」の専門家である教育測定研究所と、「学習指導」のノウハウを持つZ会がタッグを組み、社員が自ら学び、組織全体の英語力を底上げするための具体的な「仕組み」と「運用法」を公開いたしました。



プログラム

1. AI翻訳を利用しての「通じればいい」からの脱却
   → 非ネイティブ同士の共通語（BELF）を意識した、「誤解されない」ための最低限の基礎力とは
2. 研修コストを「投資」に変える仕組み
   → Z会の学習定着ノウハウを活用し、社員が自発的に学び続ける環境をつくる
3. 成果の「可視化」によるPDCA
   → 英語テスト「CASEC（キャセック）」を活用した、成長を可視化し、研修効果を数値で測定・分析する手法

開催の背景

AI翻訳ツールが進化する現在でも、対面でのスムーズなコミュニケーションやAI出力内容の精査など、ビジネスシーンにおける人の英語力の重要性は変わりません。
一方で、多くの人事・教育担当者様から次のようなお悩みの声をお聞きします。

- 特定の社員に英語を使用する業務が偏ってしまっている。
- 従業員全体の英語力を底上げしたい。
- 英語研修の効果を可視化できない。

本ウェビナーでは、こうした課題を解決するため、英語テスト「CASEC（キャセック）」を活用した定期的な英語力の測定を組み合わせた運用の考え方をご紹介しました。

【ウェビナー概要】

日時：2026年3月5日（木）15:00～16:00
主催：株式会社Z会、株式会社教育測定研究所
対象：海外展開・拡大を検討している経営層・事業責任者の方／社員の英語力向上を求められている人事・教育担当者の方／英語研修の見直し・改善を検討されている方
登壇者：株式会社Z会 高校生・大学生・社会人事業部 大学生・社会人事業推進課 主任 渡井 謙／株式会社教育測定研究所 法人営業部 副部長 河野 亜紀

© EduLab, Inc.

中等教育の英語教育ウェビナー「AI時代、英語教育の『役割』はどう変わるのか？アウトプットを加速させる個別最適化への挑戦」を開催

当社グループ会社である株式会社教育測定研究所は、2026年3月27日（金）に、中等教育の英語教育ウェビナー「AI時代、英語教育の『役割』はどう変わるのか？アウトプットを加速させる個別最適化への挑戦」を開催いたしました 。

ウェビナーの実施内容

■開催の背景

教育測定研究所は、2025年12月20日に大阪教育大学にて「中等教育の英語教育シンポジウム」を開催し、安河内哲也氏や現役の英語教員らが登壇し、パネルディスカッションを行いました。その中で、来場者から寄せられた「AI時代、教員はどのような役割を果たすべきか」という問いは、教育現場における重要かつ興味深いテーマとなりました。
今回のウェビナーでは、この問いに対し、英語教育の第一人者である吉田研作氏（上智大学名誉教授）にご講演いただき、さらに、生成AI英語ライティング学習サービス「UGUIS.AI」を実際に導入している千葉大学教育学部附属中学校（千葉県）および明星中学校・明星高等学校（大阪府）の先生方をお招きし、「AIと人のベストミックスの在り方」について、最前線の活用事例をもとに考えました。

【ウェビナー概要】

日時：2026年3月27日（金）14:00～15:30
主催：株式会社教育測定研究所
対象：中学校・高等学校の教職員、教育委員会関係者等

■プログラムおよび登壇者

1. 基調講演「AI時代に英語を学ぶ意義」
－生成AIが翻訳する時代に、なぜ自ら発信する必要があるのか？－
登壇者：吉田 研作 氏（上智大学名誉教授）

2. 実践事例発表「『UGUIS.AI』の効果的な活用法について」
- 「添削はAIに任せ、先生は生徒との対話に集中する」という役割分担。
- AI導入で見えた、生徒の学習の意外な変容。

登壇者：千葉大学教育学部附属中学校、学校法人大阪明星学園 明星中学校・明星高等学校

3. Q&Aセッション／サービスの紹介
登壇者、「UGUIS.AI」担当者が現場の疑問に直接お答えしました。
英語ライティング学習支援ツール「UGUIS.AI」、英検®級かんたん測定などのサービスを紹介いたしました。

© EduLab, Inc.

教育測定研究所 代表取締役社長・西田が「日本テスト学会功労賞」を受賞

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所の代表取締役社長 西田 紀子が、「日本テスト学会功労賞」を受賞し、2026年3月14日に開催された日本テスト学会記念講演会において授賞式が執り行われました。

受賞の背景と評価

日本テスト学会は、科学的根拠に裏付けられたテスト理論に基づく新しいテスト法や評価技術の研究開発および普及を目的に、2003年に設立された学術団体です。
同学会の「日本テスト学会功労賞」は、学会の運営や委員会活動等において、著しい貢献のあった個人またはグループに贈られるものであり、西田が長年にわたり同学会の事務局長として学会運営を支え、研究活動および学術交流の推進に尽力してきた功績が高く評価されたものです。

【受賞のコメント】

このたびは、日本テスト学会功労賞という名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。
当社は学会設立当初よりその歩みに関わり、2017年以降は私自身も事務局長として学会運営に携わってまいりました。
学会は会員および理事の皆様のご尽力によって成り立つものであり、当社はその活動を支える立場として伴走してきたにすぎません。
その役割に光を当てていただいたことに深く感謝申し上げます。今後も引き続き学会活動を支え、その発展に微力ながら貢献してまいります。

（株式会社教育測定研究所 代表取締役社長 西田 紀子）

© EduLab, Inc.

AIが個別フィードバック！指導者の負担を軽減する『UGUIS.AI』英検®スピーキング対策機能を正式提供開始

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、AIライティング学習サービスとして提供してきた「UGUIS.AI」において、英検®スピーキング対策機能の正式版を提供開始しました。これにより、UGUIS.AIはライティングとスピーキングの両方の学習に対応します。

開発の背景

英語学習では、学習者が自身の発音や発話内容を客観的に確認することが難しく、指導者にとっても個別フィードバックの負担が課題となっています。教育測定研究所は、教育測定技術とAI技術を組み合わせ、学習者と指導者双方に活用しやすいフィードバックを提供する「UGUIS.AI」を開発しました。
「UGUIS.AI」は、これまでAIライティング学習サービスとして提供しており、2025年10月よりベータ版として対応してきたスピーキング学習機能を、英検®準1級・2級・準2級・3級の各級の問題形式を参考に対応した正式版として提供開始しました。

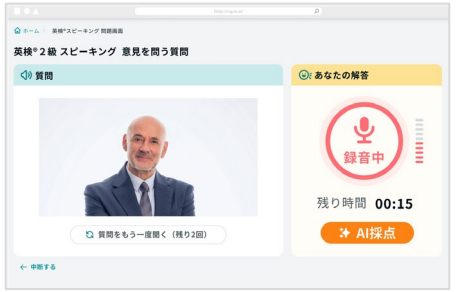


「UGUIS.AI」英検®スピーキング対策機能とは

英検®二次試験対策をオンラインで完結できる学習機能です。AIによる即時採点・フィードバック、英検®S-CBT形式をイメージした模擬テスト画面での練習、AIチャット「UGUIS先生」による個別指導を組み合わせ、学習者一人ひとりの英検®合格に向けた実践的なトレーニングを支援します。

■主な特徴

- **各級のスピーキング試験の問題形式に対応：**英検®準1級・2級・準2級・3級の各級の問題形式を参考にした対策が可能です。
- **AIによる即時採点とフィードバック：**発話音声をAIが分析し、発音・流暢さ・解答内容などを評価して改善点を提示します。
- **英検®S-CBT形式をイメージした実践練習環境：**模擬テスト画面での練習や解答音声の文字化、モデル音声との比較により、スピーキング力向上を支援します。
- **AIチャット「UGUIS先生」による個別指導：**添削結果や解答内容についてチャット形式で相談でき、学習者の自走を支援します。



今後の展望

今後も、より幅広い学習に対応した機能の追加、学校や塾などでの集団利用に役立つ機能の開発など、英語学習者の声や教育現場の課題を反映し、指導者の負担を減らし、学習者のスキル向上につながるサービスを開発してまいります。

© EduLab, Inc.

「EduLab高校生インターンシップ2026」開催報告
～高校生自らが1年かけて企画・運営。経営者らを審査員に迎え、高校生がビジネスプランを発表～

株式会社EduLabは、次世代人材育成の取り組みの一環として、2026年3月から6月の3ヶ月間にわたり「EduLab高校生インターンシップ2026」を実施しました。本プログラムは、「学校で感じる『学びのモヤモヤ（課題）』を特定し、その解決策（ビジネスプラン）を提案する」をテーマに、高校生が課題発見から解決策の立案、最終発表まで主体的に取り組む実践的なプログラムです。

高校生主体による企画・運営と他校への参加呼びかけ

2回目となる今回は、高校生からなる企画運営チームが1年をかけて「自分たちが本当に受けたいプログラム」を検討し、企画・運営を行いました。
「様々な高校との交流を図りたい」という高校生の意見をもとに、他校への参加呼びかけを実施。また、昨年度の反省を踏まえ、ビジネスプランの市場性や実現可能性をより深く検討できるよう、実施期間を2ヶ月から3ヶ月へ延長しました。

高校生が自らアポイントを取得。経営者らから学ぶリアルなビジネス

高校生自身が審査員候補への連絡やアポイント取得、趣旨説明を行い、社外の経営者らとの交流機会を創出しました。
最終発表会では、5名の経営者らを審査員として迎え、高校生が考案したビジネスプランを発表。実社会のビジネス視点に基づくフィードバックを通じて、実践的な学びの機会を提供しました。



参加者が語る「参加してよかった」実感の声

参加した高校生からは、「本格的な新規事業立案を体験できた」「市場性や実現可能性を考えながらアイデアを形にする過程を学べた」など、実践的な学びにつながったとの声が寄せられました。

今後の取り組み

当社は今後も、高校生を対象とした実践的な学びの機会を提供し、社会とつながる成長機会を通じて、次世代を担う人材育成に貢献してまいります。

© EduLab, Inc.

文部科学省における「令和8年度 学習指導要領の改訂を見据えた情報活用能力に関する調査研究」に関する業務受託のお知らせ
～国が推進する「MEXCBT」を活用した大規模CBT調査の企画・運営および採点・分析を担当～

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、文部科学省が実施する「令和8年度 学習指導要領の改訂を見据えた情報活用能力に関する調査研究」に係る業務を受託いたしました。本事業を通じて、情報活用能力の調査実施および分析を担い、次期学習指導要領の改訂や今後の教育施策の検討に資する基礎データの整備に貢献してまいります。

事業の趣旨

近年、生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な発展を背景に、児童生徒の情報活用能力をより一層育成することが求められています。本事業は、次期学習指導要領の改訂を見据え、児童生徒の情報活用能力の育成状況を把握し、今後の教育施策の検討に資する基礎データを整備することを目的として実施されます。
具体的には、全国の小学校・中学校・高等学校等から抽出した学校を対象として、児童生徒の情報活用能力を測定するCBT方式による予備調査や質問紙調査を実施し、その結果を多角的に分析することで、次期学習指導要領や今後の教育施策の検討に活用される基礎データを整備します。また、令和9年度に予定される本調査に向けた準備・設計も進めます。

教育測定研究所の役割

- 調査全体の企画、運営
- MEXCBTを活用した調査システムへの問題・質問項目の搭載
- 全国の小・中・高等学校から抽出した学校における予備調査の実施
- 調査データの採点、分析
- 本調査に向けた調査設計および実施計画の策定
- 情報活用能力調査の継続的な改善および調査結果の分析手法の検討

© EduLab, Inc.

AI単語学習『うぐ単（ウグタン）』、UGUIS.AI内でベータ版を無料で提供開始
～英検®対策のために厳選した約5,000語を「使える」レベルへ！～

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、AI英語ライティング・スピーキング学習サービス「UGUIS.AI」において、AIを活用した英単語学習機能「うぐ単」を開発し、2026年8月1日よりベータ版を無料で提供開始いたしました。

開発の背景

英語学習において、語彙力は4技能（読む・書く・聞く・話す）すべての土台です。しかし、単語を覚えても、実際に英文を書いたり話したりする場面で使えないといった声が多く聞かれます。また、指導者にとっても、学習者一人ひとりの習熟度に応じた出題や定着状況の把握には、多くの時間と手間を要します。こうした学習者と指導者双方の課題に対し、教育測定分野で培ってきた知見とAI技術を融合し、実際に使える語彙力の習得を目指す「うぐ単」を開発いたしました。

「うぐ単（ウグタン）」とは

「うぐ単」は、英検®準1級から5級までの厳選した約5,000語を対象に、AIが一人ひとりに合った単語と問題を出題する英単語学習機能です。単語の意味を覚えるだけでなく、フレーズや文の中で理解し、最終的には自分で書けるレベルまで、段階的に習熟を深めていく設計となっています。
※ UGUIS.AIの無料会員登録で利用可（ベータ版は追加料金なし）



■主な特徴

- 「覚える」から「使える」へ、段階的にステップアップ
- AIが一人ひとりの学習状況に合わせた単語を出題
- 1回10問・数分で完結、スキマ時間の学習にも活用しやすい
- UGUIS.AIのライティング・スピーキング学習と自然に連携



習熟度にあわせたクイズ形式で、段階的にステップアップ

今後は、ベータ版として提供する中でユーザーの皆さまや教育現場の声を反映しながら、対応範囲や機能を段階的に拡張してまいります。単語学習からライティング・スピーキング学習までを一貫して支えることで、学習者の「使える英語力」の獲得と、指導者の負担軽減の両立を目指します。

AI時代における評価と指導の在り方
―「第65回大学英語教育学会（JACET）国際大会」にてシンポジウムを開催―

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、「第65回大学英語教育学会（JACET）国際大会」に協賛し、「AI時代における評価と指導の在り方」をテーマとしたシンポジウムを開催いたしました。

実施内容

生成AIの普及に伴い、AIを活用した英語学習や指導が広がる中、英語力の評価や育成の在り方をテーマに、「UGUIS.AI」のデータを活用した研究発表や、大学教員による実践発表を実施。さらに、パネルディスカッションを通じて、研究と教育現場双方の視点から議論しました。
また、協賛企業としてブースを出展し、英語コミュニケーション能力判定テスト「CASEC」や英語ライティング・スピーキング学習サービス「UGUIS.AI」などを紹介しました。

【第65回大学英語教育学会（JACET）国際大会について】

開催日程：2026年8月26日（水）～28日（金）
開催場所：立命館大学 大阪いばらきキャンパス
大会テーマ：「応用言語学が結ぶ国際交流 ― 理論・評価・実践の未来」

【シンポジウム概要】

テーマ：AI時代における評価と指導の在り方
開催日：2026年8月27日（木）
時　間：14:45～16:15
会　場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

■主な内容

教育測定研究所による研究発表
教育現場の教員による実践発表
パネルディスカッション

■登壇者

飯野 厚 先生（法政大学）
田口 純 先生（岡山理科大学）
クマー・エドワード（株式会社教育測定研究所）
並川 風音（株式会社教育測定研究所）
髙村 恭子（株式会社教育測定研究所／司会）

© EduLab, Inc.

全国1,500団体超の知見をもとに、教育測定研究所が英検Jr.®オンライン版の団体向け情報サイトを新設 ～2026年9月1日提供開始 ― 導入検討から運用までを一元的に支援～

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、公益財団法人 日本英語検定協会が開発した子ども向けリスニングテスト「英検Jr.®（エイケンジュニア）」について、教育測定研究所が運営する、オンライン版の団体・グループ（以下「団体」）への導入支援を強化すべく、英会話スクール・小学校・幼稚園・英語学童・塾など団体向けの新たな情報サイトを公開いたしました。全国1,500団体超(※1)の導入実績を背景に、担当者の導入検討から運用までを一元的に支援します。

背景・目的

英語学習の低年齢化が進む中、教育現場では、学習成果の客観的な評価や学習意欲の維持、英語に触れる機会の確保が課題となっています。1994年の開発以来、リスニング中心(※2)・正答率による成績の可視化・合否のない育成型という特長を持つ英検Jr.®は、入門期の子どもの英語学習を支えてきました。
教育測定研究所は、英検Jr.®のオンライン版運営やペーパー版の普及促進・運用受託を通じ、全国1,500団体超での導入実績を有しています。今回の情報サイトでは、受験形式の比較、料金、導入事例、よくあるご質問など、団体担当者が必要とする情報をわかりやすく整理し、教育現場での英検Jr.®活用を後押しします。



英検Jr.®オンライン版 団体向け情報サイトの主なコンテンツ

- 教育現場の課題と英検Jr.®の活用方法
- 受験に必要な情報(※3)
- 導入事例
- 調査結果(※4)から見る英検®受験との関連
- 資料ダウンロード・導入相談

今後の展望

今後も団体担当者の声や教育現場の課題を反映しながら、英検Jr.®の導入支援体制を継続的に強化し、テスト・ラーニング・運営支援の各領域でサービスの改善に取り組んでまいります。

※1 2026年2月時点。英検Jr.®オンライン版・ペーパー版における累計導入団体数（自社調べ）。
※2 テストの一部に選択肢が文字で書かれた問題が含まれています。※3 無料でダウンロードいただける導入検討資料に記載されています。
※4 大手英会話スクールで1万5千件のデータを元に調査した結果に基づいています。（調査時期：2023年3月）英検®CSEスコアを基準に判断しています。英検®3級とGOLDで実際に出題される内容は異なります。

「第4回 全国高校生政策甲子園」に協賛
～教育サービスの提供を通じて、高校生の政策提言への挑戦と次世代の学びを支援～

株式会社EduLabは、公益社団法人日本青年会議所（日本JC）が主催する「第4回 全国高校生政策甲子園」に協賛しました。本大会は、全国の高校生が社会課題について考え、自ら政策を立案・提言する機会を提供する全国規模の取り組みです。当社は、CSR（企業の社会的責任）活動の一環として、本大会に協賛し、次世代を担う人材の育成を支援するとともに、当社グループ株式会社教育測定研究所の教育サービスを提供いたしました。

大会概要・実績

全国47都道府県から1,010チーム、3,045名の高校生がエントリー。予選を勝ち抜いた20チームが国会議事堂で開催された決勝大会に進出し、政策を発表しました。さらに、各部門の最優秀賞チームには、総理大臣および政策テーマを所管する大臣・関係省庁への政策報告会の機会が設けられています。



大会を通じた教育支援・サービス提供

- **英検®級かんたん測定**：エントリーした全1,010チーム、3,045名に無償提供。約10～15分で現在の英検®級の目安を測定し、今後の学習目標の設定や英検®受験に向けた準備に活用できるオンラインサービス。
- **UGUIS.AI（ウグイス エーアイ）**：日本青年会議所会頭賞・副会頭賞の各部門の受賞チームおよび各部門の最優秀賞チーム、計6チームに、各校の1学年相当分を2026年10月～2027年3月まで無償提供。AIによる採点・添削やフィードバックを通じて、英語ライティング・スピーキング学習を支援。

次世代人材の育成に向けた取り組み

当社は、2025年より「EduLab 高校生インターンシップ」を実施し、高校生が社会や教育に関する課題を考え、解決策を提案する実践的な学びの機会を提供しています。本大会への協賛も、こうした次世代人材育成の取り組みの一環です。
全国規模の大会への協賛と教育サービスの提供を通じて、高校生の主体的な学びや政策提言への挑戦を支援するとともに、当社グループの教育サービスを活用する機会を創出しました。
引き続き、教育サービスの提供を通じて一人ひとりの可能性を広げる取り組みを推進し、次世代を担う人材の育成に貢献してまいります。

© EduLab, Inc.

教育測定研究所、「海外の学力調査におけるフィードバックの方法」を発表
～「日本テスト学会第24回大会」（9月14日・15日開催）にて～

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、「日本テスト学会第24回大会」にて「海外の学力調査におけるフィードバックの方法―学力の伸びの示し方と活用のあり方の国際比較―」というタイトルで、海外の代表的な学力調査・評価制度におけるフィードバック方法と「学力の伸び」の示し方を比較し、日本の学力調査への示唆を整理した研究成果を発表いたしました。

学会への参画・大会協賛について

日本テスト学会は、教育や社会におけるテスト（測定・評価）の科学的研究とその成果の普及に取り組んでいます。教育測定研究所は法人会員として活動するとともに、第24回大会の協賛企業として大会運営をサポートしております。
今回の大会テーマは「テストの将来を探る」で、2026年9月14日（月）・15日（火）に実践女子大学 渋谷キャンパスで対面開催されました。

大会概要

- 大会名：日本テスト学会第24回大会
- 開催日：2026年9月14日（月）・15日（火）
- 開催場所：実践女子大学 渋谷キャンパス
- 開催テーマ：「テストの将来を探る」

今後の展望

当社グループは、今後も教育分野における学会・研究機関との連携を継続し、教育測定の専門性とAIをはじめとするテクノロジーを活かしながら、より公平で信頼性の高いテスト・評価のあり方を研究・実践の両面から探究していきます。また、教育現場の声を反映したサービス開発を進め、教育および評価分野の発展に貢献してまいります。

© EduLab, Inc.

教育測定研究所、大学入試学会「第3回大会」へ協賛
～「多様化時代の入試設計」をテーマに2026年9月26日・27日開催。学術研究と教育現場の実践を支援～

当社のグループ会社である株式会社教育測定研究所は、2026年9月26日（土）～27日（日）に東北大学川内北キャンパスで開催された「大学入試学会 第3回大会」に協賛しました。本大会は「多様化時代の入試設計」をテーマに掲げ、大学入学者選抜を取り巻く環境が変化する中、これからの大学入試のあり方について研究者や実務家が議論を深める場となりました。

学会への参画・協賛の背景

大学入試学会は、2023年に設立された学会で、大学入学者選抜に関する制度や運用を学術的に研究し、大学・高校などの関係者が協働して現場の課題解決に資する知見を生み出すことを目的とする学会です。2026年3月には、日本学術会議の「協力学術研究団体」に指定され、大学入学者選抜に関する学術的研究の推進と、その成果の社会的発信に取り組んでいます。教育測定研究所は、大学入試学会の趣旨に賛同し、設立当初から学会の賛助団体として活動を支援しています。また、年次大会についても第1回大会から継続して協賛しています。大学入試を取り巻く環境が多様化する中、より多くの研究や実践の成果が、大学入学者選抜の改善や現場の課題解決につながるよう、引き続き、協力してまいります。

大会概要

- 大会名：大学入試学会 第3回大会
- 開催日：2026年9月26日（土）～27日（日）
- 開催場所：東北大学 川内北キャンパス
- 大会テーマ：「多様化時代の入試設計」

今後の展望

当社グループは、今後も教育分野における学会・研究機関との連携を継続し、教育測定の専門性とAIをはじめとするテクノロジーを活かしながら、より公平で信頼性の高いテスト・評価のあり方を研究・実践の両面から探究していきます。また、教育現場の声を反映したサービス開発を進め、教育および評価分野の発展に貢献してまいります。

© EduLab, Inc.

ご留意事項

- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。 既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料のアップデートにつきましては、2027年11月頃を目処に開示を行う予定です。

株式会社EduLab

東証グロース
4427

© EduLab, Inc.